振り返る えべつの 歴史 く



○昭和30年頃、れんがに囲まれ手伝いの間に読書。

協力で提供されたものを掲載しています



○江別小学校で 遊ぶ子どもたち。

○商店での火災 消火活動中。



○紙芝居の前に集まる子どもたち。大人気の娯楽だ。



○市制施行後初の国勢調査に横断幕が渡る。

詰めかけていた。

紙芝居の前に、子どもたちが 画や紙芝居が人気で、劇場や が見て取れる。娯楽では、

ト三輪が駆け、賑やかな様子

気あるまちなみだった。 中心に商店街が軒を連ね、

を得られることは、市制施行 をひねれば、家に居ながら水 初の上水道が通水した。蛇口 による、大きな生活変化のひ 水を運んで生活していた。 み上げるなどの方法で、 かった。井戸水をつるべでく そんな中、昭和3年11月に 市制が始まった昭和29年当 まだ江別には上水道がな



○昭和32年11月、初めての通水に笑顔がこぼれる。

2014.7 広報えべつ:

江別駅前を

昭和30年代の江別市

別雨のまちな

J

江別駅の写真。駅舎は木造建 江 上の写真は、昭和28年頃の 別駅前の移り変わり

築で、バスや人々の服装も時 代を感じるものである。 左上の写真は、昭和45年8

橋の写真。今も変わらない形 に国道12号にかけられた歩道左上の写真は昭和四十年代 で歩道橋は残る。

び、活気あるまちなみへと移 線に、飲食街や商店が立ち並 きく変わり始める、国道の沿 すると、野幌のまちなみは大 和53年に大型スーパーが進出 物はなかった。ところが、 のまちなみ。昭和40年当時は 大型スーパーなどの大きな建 今と違っているのは、 昭

建てられていた、火力発電所 別商工会議所の音頭で開催さ 江別駅前通りの写真。 市内に にぎわいをみせていた。 て開催し、当時の商店街は、 商店街でも歩行者天国を続け 通りに始まり、野幌、大麻の れた歩行者天国。江別の中央 商店街の活性化のために、 された、買い物公園の様子。 左下の写真は昭和40年代の 江別駅前の商店街で開催



煙突が見える。



昭和二十八年頃



昭和四十年代



平成三年頃



平成二十六年現在



野幌の街の移り変わり 野幌のまちなみの移り変わ

りにも、特徴的な写真が残っ

雪の生活 今と昔

紹介したい。 り離せない、雪との関わりを ている。当時、 左の写真は昭和30年初頭の 北海道の生活と切っても切 車があまり

与真。馬そりを利用して移動



民の協力のもと、全市をあげ 事業として除雪が始まり、住 いる。同年、1月に市の直轄 から除雪用のトラックを借 写真は商店街除雪の様子。市 ると、重機やトラックを利用 馬そりが唯一の交通手段だっ して除雪がはじまる。 て除雪対策が行われた。 その後、昭和3年ごろにな 年月とともに、 人の手で雪を積みこんで 除雪の手段 左上の

が改良され、現在の江別の交 通を支えている。

江 別のヤツメ漁

ギ漁に触れたい。 江別の特徴的なヤツメウナ

町制時代から、貴重なタンパ されている。江別市制以前の によると、明治3年頃と推測 漁の始まりは、 ている、ヤツメウナギ。その 、源として親しまれた。 江別の味覚として親しまれ 江別市史など

道がふさがったままとなり、

大雪が降ったときは

馬を飼っていた。重機などは

普及しておらず、

農家は1頭

どで、かば焼きにした。今で 新潟、 魚としても重宝されており、によると、目の疲れをとる薬 も懐かしい味わいを求める 生きたままのものは、東京な たという。氷詰めで保存し、 希少な資源となっている。 などにより、ヤツメウナギは ファンも多いが、環境の変化 また昭和3年の市制だより 富山方面に売られてい

馬車でごみ収

をかけ、埋立地まで運んでい ごみが飛ばされないように網 して馬車を使っていた。風で 子。当時、ごみ収集の主力と 市制施行直後のごみ収集の様 左の写真は、昭和3年初頭

てきたのは、 は、ごみが飛ばされ、 るなどの苦労もあった。 ごみ収集に大きな変化が出 しかし、風が強い江別で 昭和36年。 散乱す 風な

)昭和30年頃、馬車でのごみ収集



フリ ○平成4年.

昭和34年頃、商店街での除雪作業

○昭和36年頃、重機を使った除雪作業。



○昭和32年頃、ヤツメウナギ漁の仕掛けを引き上げる漁師。

付いていった。 ル意識も高まり、 無償提供の仕組みを確立 とから、リサイクルを推進す 収集に切り替えを行った。 源化などが、現在の生活に根 会やPTAを中心にリサイク ルバンクを開設、 ることになった。 た。平成4年ごろには、 し、ごみの排出量も増えたこ 昭和6年8月に、リサイク その後も人口の増加に比例 家具などの 不用品の資 自治

年10月に家庭ごみ処分が有料 担の公平化のため、処分費の 有料化は避けられず、平成16 さらなるごみの減量化、 現在に至る。 負

どの対応策として、馬車での

ごみ収集から、ダンプ車での

当別町へ

石狩大橋

(昭和 50 年 3 月全線廃止)

江当軌道

高砂駅

野幌駅

JR函館本線

大麻駅

(昭和9年11月廃止

三原(当時の駅名)

工別 ※江当軌道の史跡が 現在もこの場に残る

江別駅

上江別

南幌町へ

別加 Ġ

江

别

を支えた鉄

道



現在は、 も鉄道があった。 西に延びたまちなみが特徴。 道を紹介する。 えているが、その昔には他に 大動脈となって、 江別市は、 JR函館本線が江別 線路に沿って東 懐かしの鉄 交通を支

鉄道路線図今昔物語

岩見沢市へ

豊幌駅

始した。 くをかけて竣工し、 道を指す) された。この軌道 江当軌道の創立総会が開催代、大正15年1月に当別村で 客車3輌に26名の客 は当別と江別とを 総会から3年近 (小型の鉄 営業を開

市制が始まるさらに前の年

札幌市へ 主な鉄道駅名 江別~三原~ 蕨 岱~当別 江当軌道 ※駅名は当時の名称 野幌~上江別~下の月~ 夕張鉄道 晚翠~南幌~…夕張本町 など ○昭和30年、江別を駆ける夕張鉄道のディーゼル機関車。 で、 通を節目に廃業となる。 昭 た。この地域の経済活動、 量



○平成 26 年、きらら街道に残る鉄道信号機







間程度。運行は、冬季を除き 席を設け、 イクロバスと普通のバスの中 江別~当別間は、当時悪路 日4往復していた。 大きさは現在の

きる野幌に設置された。 張鉄道である。 道橋」という名前にも残る。 もう一つ、昭和5年11月3日 ている。また、美原3線の「軌 た、石狩大橋のたもとに残っ 市街から江北地区に橋を渡っ に江別での営業を開始した夕 江別の発展を支えた路線を この軌道の史跡は今も江別 石炭の貯蔵場所が確保で 駅は江別でな

の鉄道信号機が今も残る。 街道に沿って、 として道路に生まれ変わる。 和5年に現在の「きらら街 翌年昭和5年3月には貨物輸 49 送を含め全線廃止となった。 道も徐々に活気を失い、昭和 家用車の普及に伴い、夕張鉄 (道が撤去された土地は、 年4月、旅客輸送が廃止、 しかし、 石炭の需要減と自 の北海鋼機 夕張鉄道時代 前 道 昭

道の開通を喜んだ。 前では盛大に祝賀会を開き鉄 (道の江別開業の É 野幌駅

J

江別の生活と産業を支えた。 格が安くなった。農産物の輸 ても役立ち、 炭の輸送費が下がり、石炭価 性がはるかに向上した。 夕張鉄道により、 沿線住民の移動手段とし 半世紀もの間、 物流の利 石

輸送する目的で設置され

当別の農産物を迅速に大

和9年の11月に札沼線

0)

開

の両面で活躍するが、

 \exists

格段と便利になった。 野幌駅周辺は生まれ変わ 南北の往来は 現在の線路

は高架になり、 ろうとしている。 車している貴重な写真。 R北海道の野幌駅。左端の写 真は、昭和40年ごろの野幌駅。 右に夕張鉄道、左にJRが停 現在、江別の顔づくり事業 最後に取り上げるのは、

: 広報えべつ 2014.7

加加 の窯業

れんが産業の始まり

その工場があったのは、明治 24年ごろと推測されている。 とから、工場があったとされ かられんがが多数掘り出さ にったとの記録が残されてい 場所は江別太、現在の東光 場製」と刻印されていたこ に建設されたれんが工場 江別の代表的な産業のひと **江別のれんが製造が始まっ** 残された文献などから、 その中に「江別太煉化石 現在の覚良寺(東光町) れんががある。





づくりの様子。)昭和30年後半のれんが工場内部での土管

れんが産業の歴史

ら煙を上げていた。 粘土窯業工場が、高い煙突か 駅の周辺には、10か所以上の まりを迎えるころには、野幌 場が建ち、競い合いながられ る粘土が豊富で、燃料の石炭 されたことにある。原料とな た。そのため野幌に複数の工 よく供給できる環境があっ 20年代後半から30年代にかけ んが産業は発展していった。 昭和3年代、江別市制が始 れんが産業の転機は、 夕張鉄道を利用して効率 野幌にれんが工場が設立 明治

試験場野幌分場での陶芸研修 の開花へつながる。道立工業 業技術は、江別市の陶芸文化 野幌で長年培ってきた、窯 材として利用された。 見かける四角いれんがで、 いたのは、赤れんが、普通に このころ、主に製造されて 建

は、 は現在もれんがのぬくもりあ わっていった。昭和40年代に 安価な製品がれんがに立ち替 が普及する。耐久性が高く、 る建物が多く残っている。 の温かみが見直され、 には5工場まで減った。しか していき、工場数も昭和42年 し、昭和50年代には、 ントや、タイルなどの新建材 30年代後半になると、セメ れんがの需要は年々減少 市内に れんが

る。 道内有数のイベントとなり、 力となった。やきもの市は、 となるやきもの市を開催する 陶芸熱は、 き始める。市民層に伝わった なり、江別に陶芸文化が根付 平成2年に第一回

験でき、子どもから大人まで 身近に本格的なやきものを体

アートセンターが完成。より の熱意は今も燃え続けてい 今年25回目を迎える。陶芸へ 平成6年には、セラミック







(1978年)

和

53

年

土佐市と友好都市盟約調印。

新東京国際空港

(成田空港)

(1982年

和

57

年

水道庁舎開設。 第1回スノーフェスティバ

石狩湾新港開港

テレホンカード使用開始

(1997年) 平成9年

えぽあホ

-ルがオープン。

き上げ。 消費税率が3%から5%へ引

1990年

成

2

年

第1回江別やきもの市開催

全線開通。

札幌~旭川間

(2004年)

成

16

年

家庭ごみの有料化開始。 江別市制50周年を迎える。

が高校野球大会優勝 駒澤大学附属苫小牧高等学校 (1977年)

盟約調印。

グレシャム市と姉妹都市の

王貞治氏75本のホームラン世

界記録を達成

52

(1972年

和

47

年

業。 青年センター温水プール開

幌大会の開催。 第11回冬季オリンピック・

札

上野動物園でパンダ初公開。

(1968年)

和

43

年

市役所大麻出張所の開設。章告示。
江別市旗制定・江別市民憲

郵便番号制度実施

川端康成氏ノーベル文学賞受賞。

高齢者人口

生産年齢人口

江 別 á 0 Ó

年表とともに振り返る。 どのようなことがあったのか 江別のあの日、日本全国は

た。 どのたくさんの出来事が、 別市にはある。紹介しきれな 60年間を少しずつ紹介してき 写真とともに、 記事では書ききれないほ 江別市. 制の 江

> かった歴史を60年の時間の流 江別である出来事が起きた 日本全国では何があっ

とき、 たかを表にしてお伝えする。 れとともに伝えたい。

1 TISO í 別

化の中、 ちづくりに取り組んできた。 成17年をピークに減少してい 長や人口増加を前提にしたま る。 かし、 これまで江別市は、 江別市の人口は、 段と進む少子高齢 経済成 平

22年の人口より約9千 後の平成35年の人口は、 想されている。 将来人口推計では、 約11万5千人になると予 特に、 これか -人減少 平 10 成 年

昭

和

41

年

国鉄大麻駅開業。市庁舎が高砂町に移転。

日本の人口1億人を突破

東海道新幹線開業。

会開催。 第18回オリンピック・東京大

ビートルズが来日

(1966年)

昭

和

39

年

(1964年)

麻団地に第一期の入居開始。大麻団地が起工、12月に大

昭

和

29

年

を開催。第1回市民運動会・文化祭江別市政の施行開始。

第1回全日本自動車ショー開催

年代

江別のあの日

日本全国の出来事

(1954年)

となり、 らの江別市を担う15歳未満 者になると予想される。 者人口は、 する一方で、 の生産年齢人口は大きく減少 年少人口や15歳から4歳まで 約3人に1人は高齢 平成35年には35.5% 65歳以上の高齢

の基本方針を示したのが そのまちの姿を実現するため 0) 、つ未来づくりビジョン ようなまちにしていくか。 10年後のめざすまちの姿と 八口減少・少子高齢化が進 これからの江別市をど 「え

平成 25 平成 30 平成 35 (2013) (2018) (2023) 詳しい内容は、各公共施設に設置した 「えべつ未来づくりビジョン」をご覧ください 江別市ホームページからもご覧になれます。

> 6次江別 市 総合計 画 であ

後の将来都市像を をキーワードに、 と定めた。 ン」では「恊働」と「戦略性」 つくる未来のまち 「えべつ未来づくりビジョ めざす10年 「みんなで えべつ

あっても、 性を最大限に活かした戦略的 これからの人口減少時代に 江別市が持つ優位 江

ちづくりを進めていくことを みんなで未来に向かって、 たい、ぜひ住んでみたい」と べての人や団体が協力し のために、 くりをめざすこと、そしてそ 思えるような魅力あるまちづ 別市に「いつまでも住み続け な取組を展開することで、 で一緒に作っていきたい。 目指している。 これからの江別を、 江別市に関わるす みんな ま

平成 17 (2005) 平成 22 (2010)

1<mark>9,223</mark> (15.5%)

平成 12

17.374 (13.8%)

江別市の将来人口推計

125,601 123,722 123,877 122,257 119,046 114,864 120,000 18,837 (15.2%) **22,481** (17.9%) 3<mark>0,868</mark> (25.3%) 36,624 (30.8%) 40,785 90,000 85,817 (69.3%) 81,638 (66.0%) 85,746 (68.3%) 60,000 77,685 (63.5%) 70,778 (59.4%) 64,218 (55.9%) 30,000

15,054 (12.2%

広報えべつ 2014.7